

技術者のモラル ～モラルに対する感性を磨くために～

原子力安全システム研究所 社会システム研究所編、丸善プラネット(株)、57 頁

ISBN 4-901689-12-6 (定価 500 円 + 税) 2003 年 4 月 1 日発行



〔目次〕

はじめに

1 モラル問題対応の切り口とチェックポイント

1.1 事実関係の確認・整理

1.2 問題点の整理(3つの視点からのチェック)

1.3 市民としての常識・良識からみたチェック

2 例題演習(例題チェックポイント別課題検討)

2.1 H発電所におけるトラブルの処理報告

2.2 Z市における工事請負先選定

3 ケーススタディ用事例集

ケース1:タービン第一段動翼のクラック

ケース2:Y発電所の安全対策

ケース3:保修現場における事故の責任 ほか

おわりに

最近、一連の会社不祥事の背景として、企業倫理の必要性が認識され、強調されてきている。本書は、技術者が実際に直面するモラルに関わるジレンマを疑似体験することにより、技術者のモラルに対する「感受性」や「分析力」、そして「判断力」を高めることができるユニークな教材である。

企業倫理に関する書籍は、これまでに企業の不祥事が発覚するたびに数多く出版されてきたが、いずれも教材として利用するには内容が難しかったり、事例が身近な問題ではないなどの難点があった。しかし、本書は教材として利用することを意識した構成となっているため、「自己学習」あるいは「グループ学習」に利用できる工夫がされている。掲載されている7つの事例(ケーススタディ)は、どれも読者を引きつける内容であり、熟読して各チェックポイントをクリアすれば、モラルの感性を磨くことができる。

本書の“まえがき”には、モラルを単なる「精神訓話」とせず、モラルに関する実際の問題を取り上げ、モラルの向上と維持に役立てるため、いかなる方法を用いればよいのか、目標とチェックポイントを具体的に提示したことを強調している。職場でモラルの問題に直面したときに、どのように受け止め、判断し、行動すればよいかという要点を知りたい読者にお勧めの一冊である。